

[創立40周年祝賀会記念講話] (要旨)

空手道の輝かしき未来をめざして

…人の輪、心の和・・・

崇武館館長 飛鳥宗一郎

はじめに

本日は、崇武館創立40周年記念祝賀会に当たり、土曜日の午前中からという開会にも拘わらず、公私ともにご多様中のところ、日頃大変な世話になっておりますご来賓の先生方、先輩や友人親戚、そして崇武館関係者など、かくも大勢の皆様にご臨席をいただき誠にありがとうございました。ここに、心から厚く御礼申し上げます。

さて、実行委員会から私に記念講話をとの話を受けましたので、取りとめない話かもしれませんがお許しいただきたいと思えます。

1 私の経歴

自己紹介を兼ねて私の経歴は次のとおりです。後に触れますが、来年度新学期から全国の中学校において保健体育教科の中で武道が男女ともに1・2学年で必修課となります。私は、そのことに関して1冊の小誌を作成しました。その本の末尾に経歴として記載したものですから、同じようなことですが次のとおりです。

大都市圏に比べれば山形県など片田舎ですが、その片田舎できり空手をやってこなかった私ですが、幾つかの全国の記録を持っているのです。人前であまり言ったことありませんでした。

昭和10年(1935年)、山形県最上郡最上町向町生まれ。新庄北高校卒業、山形大学文理学部中退。

大学入学後空手道部入部、翌年第5代主将となる。その後、和道流空手道創始者の大塚博紀先生に師事する。

昭和40年(1965年)11月、山形県空手道連盟を結成、29歳で初代理事長。平成4年(1992年)本県開催「べにばな国体」の指揮を執り、空手道競技唯一となる天皇皇后両陛下のご観覧を仰ぎ、史上最高記録得点で総合優勝を達成。副会長を経て平成14年(2002年)第4会長に就任。

(財)全空連東北地区協議会議長(H14~19)、山形大学空手道部師範(S39~H23)、第1回世界空手道選手権大会審判員(S45年開催、34歳の最年少)、(財)全空連二級資格審査員、東北学生空手道連盟審判部長(S44~H14)など歴任。現在、(財)全空連東北地区協議会相談役、山形大学空手道部相談役、(財)全空連和道会常任理事、同中央技術委員会(旧・中央技術本部)委員、同中央資格審査員、山形大医学部空手道部師範、崇武館館長などを務める。

2003年日本スポーツマスターズ大会組手第6部準優勝、日本体育協会競技力向上上級コーチ、(財)全空連和道会範士・八段(実技八段位合格第1号、48歳4か月の全流派通じての最年少記録保持)、(財)全空連公認教士・八段。全国組手・形公認審判員。

学校法人東海山形学園評議員、山形市立南小学校わかたけ会会長、臥龍山天徳寺総代他の役職を務める

2 空手道との出会いと山形大学空手道部

高校時代は柔道部。高校3年生の7月に、母校で拓殖大学空手部（当時は「道」を付けなかった）OBと現役部員による演武会を見学し、自分の生涯続ける武道は柔道ではなく空手だと決意を抱く。そして、彼らから初歩の訓練法を教わり、大学進学は拓大で引き受けると連絡先を知らされた。早速自宅裏の電信柱に縄を巻き付け「巻藁」鍛錬を開始。

入学案内に山形大学「空手部あり」を見て、近いところもと受験したら合格してしまい、拓大の方には辞退の通知を出した。

早速空手部に入部し練習参加したが、拓大空手から受けたイメージとあまりにも掛け離れた内容に落胆しながらも、先輩の指示に従い毎日を過ごした。流派は和道流だと説明があった。入学時既に拳ダコだけは部員中で一番だった。

春休み帰省中に、神奈川大学に進学した高校の1年先輩から、『私の友人にも空手部員がいる。和道流と言っていたから交流できるように話してあげようか』とのこと。新学期になって先輩にこのことを告げたところ、『都会の大学と交流しようではないか』と相談がまとまり、私は早速連絡をとった。

ゴールデンウィークの春合宿に神奈川大の主将と副将が来て指導を受けた。9月和道会連盟に加入申請し、11月の昇段審査受審のために1週間前に上京して、神奈川大で初めて流祖の大塚博紀先生から指導を受け、本日同席している山形大学拳友会会長の安孫子孝氏他1名の3名が東北地区大学最初の和道会初段合格者となった。

以来、山大は大塚博紀先生から直接指導を受けるようになり、私は幸いにも昭和46年に先生が亡くなられるまで師事することができた。このことは私が山大に入学したから可能であったもので、拓大も一つの選択肢であったとしても、今に至り大塚先生の門下生で良かったと心から思っている。

山大には6年間在学したが、4年になるとき父の勧めで郵政省職員（国家公務員）になってしまい、1年後に山大と最も近い職場に配置されたが卒業はできなかった。だが、山形大学空手道部は、中退の私を昭和33年に監督、39年に師範として迎えてくれた。今の私を育ててくれたのは、間違いなく山形大学空手道部である。

3 崇武館の設立

山形大学空手道部、並びに県空手道連盟の指導を専らとしていたが、昭和46年（1971年）自宅と併せて道場を建設し9月1日に飛鳥道場として開設した。これは関東以北では最初の新築空手道専門道場となる。私35歳の時でした。

2年後に崇武館と名称を改め、3年後から少年部指導を開始する。その他、支部の開設や館歌の制定などの詳細は祝賀会次第の葉に掲載してある。

4 思い出に残る仕事

本日までご参会の皆さんとともに、私が責任者として取り組んだ次の二つの任務は、生涯忘れ得ない行動となった。協同の精神をもって共に歩んだ人の輪、疑わず一丸となって突き進んだ心の和を有り難く思うのです。

(1) 山形地方貯金局廃局阻止の運動

私が勤務する山形地方貯金局は郵政省の直轄機関として山形市小白川町にあって、定員は362名、他に常時100人を超す臨時職員を抱える職場であった。

ところが、昭和54年(1979年)の年末、政府の第一次臨時行政調査会答申により、郵政省に対し大幅な機構改革が求められ、全国に26局あった地方貯金局は統廃合の対象となった。その前の昭和52年、私は最上郵便局長への転任を辞退し、全通信労働組合「山形地方貯金局支部」支部長(他なら執行委員長)の任にあった。

山形地方貯金局の場合は廃局の提示であり、これは絶対に阻止しなければと総行動を展開することを提案、満場一致で承認された。

翌年度末まで約100日間のタイムリミットの中で、毎週政府や郵政省などへの陳情行動のため上京し、県内の国会議員、県会議員、県知事、各市長などに支援をお願いしたところ、全員から快く承諾を得た。本日、その方々や縁者もこの会場におられます。私が空手道を通じて知り合いお付き合いいただいていた方々でした。

この山形の運動が切っ掛けとなって、全国的な行動の広がり発展し、結果として名称変更と地方郵政局の傘下に入るという変更により存続を勝ち取ることができたのです。

(2) 「べにばな国体」空手道競技への取り組み

空手道は「滋賀県国体」(昭和56年)から正式種目となる。この年、日本体育協会は第47回国体(昭和なら67年、1992年)の全種目山形県開催が承認された。

昭和60年(1985年)、空手道競技会場が温海町から、新築予定の天童市の山形県総合運動公園(メイン会場)に変更と発表されたが、これは唯一の会場変更である。

山形県開催の決定から約10年間の対策期間があつて、取りあえず強化方針の策定から開始したが、全て手書き文書の時代である。

県連理事長であった私は、現場の責任者として次の目標を自分に言い聞かせた。

- ① 絶対に種目優勝を勝ち取る。
- ② 競技運営に成功する。
- ③ 役員体制の充実を図る。
- ④ 取組みの業務を通し、人間として互いに成長を目指す。
- ⑤ 十分な活動ができるよう独自財源を確保する。

選手強化と財源確保は開催間近の県から学び、長いようで短かった10年間、お互いが信じ合い、総行動で目標達成に向かって邁進した。

平成4年10月5日、競技会初日の午後には、空手道における全ての大会・競技会史上唯一無二となる天皇皇后両陛下のご光来を仰ぎ、4600名定員の観覧席は通路まで立錫の余地ないほどの観客で埋まった。「少年女子形競技」のご観戦から始まり、中断して組手の天覧試合を今日この場にいる飛鳥康弘、横田和浩の他2名が荣誉ある場面を担った。

9種目中5種目に優勝、新記録得点で総合優勝を達成、崇武館関係者では飛鳥康弘(組手重量級、団体戦)、横田和浩(組手団体戦)、西堀裕子(小年女子形)が優勝者である。

競技運営も形競技に初めてのパソコン導入を開発し、遺漏なく大成功となった。

全員行動が効を奏した10年間の取り組みは、皆共に最後は大いなる喜びとなった。

5 先人の言葉から学ぶ

空手道の輝かしい未来に向けて、まず指導者自身が人間性を磨き、率先垂範する気持ちで日々歩み鍛錬に励む心構えが肝心である。

私は、次に掲げる言葉の中に自分を磨く指針を見出し、精進できたらいいと思い実践に努めている。

[ここに記載したそれぞれの字句に対して補足説明しながら話を進めたが、これらの説明については新年1月分ワンポイントレッスンから逐次取り上げたいと思っているので、ここではレジュメのまま記載するに止める]

(1) 諸行無常・・・平家物語

『祇園精舎の鐘の声、諸行無情の響きあり。沙羅双樹華の色、盛者必衰の理をあらわす。おごれる人も久しからず・・・』

諸行無常 是生滅法 生滅滅已 寂滅為楽 (涅槃経)

『色は匂えど散りぬるを 我が世誰ぞ常ならん 有為の奥山今日越えて 浅き夢見し酔ひもせず』(いろは歌)

(2) 大和し美し・・・大和武尊の歌

『やまとは国のまほろば たたなずく青垣山籠れる大和し美し』・ヤマトタケルノ尊の歌で、古事記に記載されている。

川端康成は、良寛(1758～1831年)辞世の歌『形見とて何残すらむ春は花 夏ほととぎす 秋はもみじ葉』を「大和し美し」の心と観じて、ノーベル賞受賞記念講演「美しい日本の私」の中で述べている。

(3) 天にあつては星の輝き 地にあつては心の律・・・カントの言葉、墓誌銘。

イマヌエル・カント(1724～1804年)はこの言葉で、墓誌銘に記されている。

松前重義(1901～91年)は東海大学の創始者。日本武道協議会会長も務めた。松前の「建学の精神」である。

若き日に 汝の思想を培え	若き日に汝の体軀を養え
若き日に 汝の知能を磨け	若き日に 汝の希望を星につなげ

(4) 秘すれば花なり 秘せざれば花なきなり・・・風姿花伝

父観阿弥(1333～84年)の言葉を、子の世阿弥(1363～1443年)がまとめて著したのが「風姿花伝」である。『初心忘るべからず』も人口に膾炙される。

(5) 慙恥質直・・・道場の扁額

出典は「佛垂般涅槃略説教誡経」(略して「遺教経」と言う)だが、平成17年(2005年)1月新道場竣工に際し、「遺教経」の二か所から選んだ私の造語である。

『慙恥の服は諸の莊嚴に於いて最も第一なりとす。慙は鉄鈎の如く、能く人の非法を

制す。この故に常に当に慙恥すべし。暫くも替つることを得ること勿れ。若し慙恥を離すれば、即ち諸の功德を失す。有愧の人は即ち善法あり、若し無愧の者は禽獸と相異なること無けん』。

『諂曲の心は道と相違す。是の故に宜しく応に其の心を質直にすべし。当に知るべし、諂曲は但だ欺誑を為すことを。入道の人とは則ち是のところになし。この故に汝等宜しく応に端心にして質直を以て本と為すべし』。

(6) 大塚博紀師の道歌

武の道は ただあら事と な思いそ 和の道究め 和を求む道

おわりに

来年度(平成 24 年 4 月)から、全国の中学校で武道が必修正課となる。これらの情勢に鑑み、私は山形県空手道連盟の立場から「中学校で武道が必修正課に向けて」(副題：空手道の立場から)を執筆し、県内の教育機関、全中学校長、そして全国の関連機関等に送付した。空手道の立場からといっても、「学習指導要領」では柔道、剣道、相撲の三武道が主たる種目であり、それを除く武道種目は地域の事情などにより採用可能と表現されているので、空手道が新年度当初から取り上げられる可能性は山形県では極めて少ないかもしれない。

私がこの小誌を作成したのは、空手道は今後中学校の教育現場において最も適した条件を沢山持つと確信し、将来に向けた種まきのつもりであった。

空手は、我が国固有古来の武道精神を守り、礼を大切にしてきた伝統、空手に先手なし、習い易さ、護身などへの効用、服装や場所の安易さ、体力や体型に影響されない、老若男女を問わない、反射反応力の養成、バランス良い体躯の発育、全身運動、精神力の強さなど、修養して有利な好条件を沢山持っているからである。今後は必ず衆目の注視を集めることを信じて疑わない。

そのためにも、指導者自身が教わる人たち以上に悩み苦しみと鍛錬に耐えながら、人間としての輝きを増す努力をしなければならないと思う。その中の一人として、私も残る人生の全てを懸けて修練する決意である。

空手道の輝かしい未来に向けて、青少年の健全育成をはじめ社会に有意な人材を多数輩出できるよう、皆様方とともに歩みたいと思っていますところでもあります。

拙い講話を長時間ご静聴いただき、誠にありがとうございました。

おわり